

学校施設有効活用事業への予約システム等の導入に関するサウンディング型市場調査事業者向け説明会 質疑内容

No.	質問	回答
1	利用調整会議はクローズな場であると思いますが、予約システム導入後は利用手続をオープンにされるのでしょうか。	地域や利用団体の相互協力による運営といった仕組みについては、予約システム導入後も概ね維持する予定です。そのため、利用調整結果を把握している地域や利用団体の方が、予約システム内で予約申請が利用調整通りであるかを確認する作業が必要になると考えています。
2	利用調整会議に出られない団体は申込ができないのでしょうか。	利用調整会議では、利用日時の調整だけでなく、利用に際しての学校からの注意事項の伝達なども行っていることや、学校施設（貸館ではない）という特性上、ある程度顔が見える関係の構築も必要ですので、現時点では利用調整会議への出席を利用の前提条件とする想定でいます。
3	サポート体制というのは具体的にどのような内容を想定しているのでしょうか。	現時点では、主に予約システムやスマートロックの操作方法に関する問合せについて、平日夜間や休日も含めて電話やメール等に対応できるコールセンター業務を想定しています。 なお、実証実験を踏まえすと、コールセンターの設置期間は利用者が操作に慣れるまでの一定期間のみとする可能性も考えられます。
4	予約システムやスマートロックの導入は全校同時期に行うのでしょうか。	今後、個別対話で事業者の皆様からのご意見等を伺いながら検討するとともに、庁内手続を経る内容となりますが、例えば予約システムは全校同時期に導入したうえで、スマートロックは段階的に導入していくといった可能性もあると考えています。
5	サポート体制について、例えばスマートロックが開かない場合には現地に駆けつけて対応するといったことも想定されているのでしょうか。	現時点でそこまでの対応は想定していませんでしたが、現地に駆けつける体制を組めるのか、その際の費用はどの程度なのか、といったことも含めて、今後の個別対話で事業者の皆様からのご意見等を伺いたいと考えています。
6	通常の施設開放の（校庭夜間開放を含まない）範囲のみ、もしくは一定の範囲（例えば川崎区に限定）の学校のみ、受注するといったこともできる可能性はあるのでしょうか。	通常の施設開放や校庭夜間開放などの事業は今後整理・統合していく方向で検討しています。また、現時点では、対象範囲を行政区等で区切ることなく、施設を開放しているすべての学校を対象として事業者を公募する想定でいます。
7	学校によって利用調整がスムーズであったり、難航していたりといった内情はあるのでしょうか。	学校ごとの開放施設数や登録団体数といった数字は把握していますが、利用調整の詳細な内情までは把握できていません。 なお、駅に近い学校は比較的登録団体数が多いといった傾向が見受けられますが、登録団体数が多いことが必ずしも利用調整の難航にはつながってはいないようです。 予約システム導入後も、学校ごとに利用調整を終えてから、予約システムでの手続を行うという想定でいますので、予約システム側で利用調整のことを考慮していただく必要は無いと考えています。